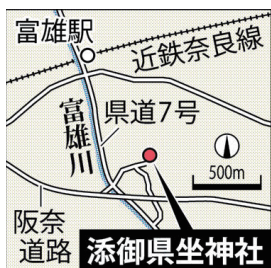




添御県坐神社拝殿 奈良市で



添御県坐神社（奈良市）



近鉄富雄駅から畑の残る住宅地を歩くこと約15

疫病退散 集めた信仰

分、こんもりとした標高150メートルの山の中腹に、添御県坐神社があります。平安時代の神社一覧である「延喜式神名帳」では「大社」と記載され、創建は不詳ながら、古墳時代にさかのぼるとも言

（住所）奈良市三碓3の5の8
（祭神）建速須佐之男命、武乳速之命、櫛稻田姫之命
（交通）近鉄富雄駅下車、南へ徒歩約

15分
（拝観）境内自由
（駐車場）あり（無料）
（電話）0742・43・1428

社殿は西向きで、春分、秋分の日には太陽が生駒山の最もくびれた所に沈むのが見えます。これは古代の方位信仰の名残と考えられ、当地の人々の農作業の指標となったと思われま

祭神の須佐之男命は、疫病退散のご利益があり、古来、病氣平癒や健康維持を祈る人々から、厚く信仰されました。拝殿の大絵馬には、明治12年に当地にコレラがまん延した際、人々が病魔退散を願い参拝する様子が、克明に描かれています。

10月第3日曜日の例大祭では、太鼓台や子供みこしが練り歩き、初詣には行列ができる、地域に根付いた神社です。

（奈良まほろばソムリエの会員 新島弓美子）